

# 事業報告

## 第2期NEC森の人づくり講座／2006年・秋

開催日：2006年11月23日～27日

1995年より長きに渡ってNECにご支援いただき、2006年度 晩秋の“第2期NEC森の人づくり講座”も2回目の修了生を無事送り出すことが出来ました。

- ・ 真正面から「森林問題」への具体的解決を試みる。＝何はともあれ実践してみる。
- ・ 前期は受講生として参加、後期は前期修了生＝後期生として次期受講生へ「伝える」ことで「人の環づくり」をおこなう。
- ・ 地球環境問題の課題としての森林問題を、前期後期で季節の違うアプローチとして体験する。

このねらいを十分に感じ実践していける人材が今回の講座からも旅立っていきました。それでは今回の講座がどのように開催されたのか、オークヴィレッジ／森林たくみ塾とキープ・フォレストーズスクールの2コース、それぞれの5日間を以下に報告いたします。

# プログラム紹介

オークヴィレッジ／森林たくみ塾 コース

場所

岐阜県高山市清見町

●講座のねらい

- 12期生：「自分たちが講座で得たもの、学んだもの」を、13期生に「いかに伝えられるか」
- 13期生：環境問題の解決のための「具体的行動のひとつ」として「森の手入れを理解する」

●講座中に伝えたいこと

- ① 問題の解決には、考えるだけでなく具体的な行動が必要
- ② 地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定機能への期待感
- ③ その機能を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない
- ④ 一本一本の木が元気になることで森全体の機能が高まる
- ⑤ 一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す
- ⑥ 人の環＝人を束ねる仕掛けづくり（ネットワーク）
- ⑦ 森の手入れをおこなうにあたって、道具の的確な使用法と安全な作業について理解する

●そのために大切にしたいこと

- ① 森での活動を軸にプログラムを構成する
- ② 森づくり活動は、モノづくりと結びつくことでより意義が深まる
- ③ 体を使って実体験すること（頭でっかちにならない！頭も体も・・・）
- ④ やれば出来る！やらなきゃ何も進まない！

●プログラム実施結果

---

第1日目／11月23日(木・祝日) 「森の人」の会合日

---

13期生	12期生
14:00 受付開始	←同左
14:30 開講式／インフォメーション	←同左
15:00 アイスブレイク	←同左
15:30 実技「森の手入れということ」	実技「私たちのやったこと」
↓ 意見交換「なぜ森の手入れをするのか」	討議「13期生にどう伝えられるのか？」
↓ 小講義「森の手入れの必要性」	↓
18:00 夕食	←同左
19:00 「森人」との出会い	←同左
21:00 終了	←同左

---

第2日目／11月24日(金) 受け継がれるもの（伝わるもの）

---

13期生	12期生
08:00 朝食	←同左
09:00 実技「森づくり事始め／親方に弟子入り」	実技「森づくり事始め／親方修行」
10:30 ふり返り「やってみてどうだった」	ふり返り「森人をつなげるために」
12:00 昼食	←同左
13:00 「森人がつながる」(引継ぎの儀)	←同左
13:40 記念撮影	←同左
13:50 12期生送り出し	12期生、花道へ
14:00 ↓	解散
15:00 実技「まずは安全作業から」	
18:00 夕食	
19:00 スタッフとともに（スタッフの小部屋）	
20:30 終了	

---

第3日目／11月25日(土)

森づくりの実感 (伝えるもの)

---

08:00 朝食  
09:00 小講義「森づくり／計画を持って事に当たる」  
10:00 実技「森づくり計画編」  
12:00 昼食  
13:00 実技「森づくり実践編」  
18:00 夕食  
19:00 スタッフとともに (前半のふり返し)  
21:00 終了

---

第4日目／11月26日(日)

先を見越す

---

08:00 朝食  
09:00 小講義「人と森とのつきあい方」  
10:00 実技「森づくり／利活用編」  
11:00 実技「森のモノづくり」  
12:00 昼食  
13:00 実技「森のモノづくり」延長戦  
16:00 オークヴィレッジ見学  
18:00 森人大交流会  
21:00 終了

---

第5日目／11月27日(月)

つながるために

---

08:00 朝食  
09:00 小講義「人の環づくり」  
10:00 ふり返し  
12:00 昼食  
13:30 全体ふり返し  
14:30 閉講式／記念撮影／解散



## 1日目：「森の人」の会日

今回飛び入りで11期生の「どんちゃん」こと土肥君が駆けつけてくれました。

### 開講式

昨年とは違い、紅葉の最中小春日和で始まった今回の森人講座。主催者JEEFと協賛企業NECに代わり森林たくみ塾理事長佃より受講者へ、講座の意義や講座に向かう姿勢などについて話がありました。



### アイスブレイク

まずは互いを知るためのゲームからスタート。「夏の〇〇」「最近〇〇〇なこと!!」「もう一度行ってみたい場所」という題でA4用紙に記入し、住んでいる場所や血液型などでグループをつくって紹介しあいました。その後、森へ向かうために準備運動として11期より伝統?となった「アブラムシ体操」で体をほぐしました。



### [実技] 12期「私たちのやったこと」

6月の講座で自分達がどんなコンセプトで森の手入れを行ったのか、作業班ごとに作業エリアを歩くことで現地でのふり返りを行い13期生にそのコンセプトと作業内容を伝えました。

### 13期「森の手入れということ」

代々の受講生が作業した森をみた後、12期生から森を手入れするにはコンセプトが必要だということを伝えられた13期生。これからの活動場所をよく見て思いを巡らしていました。



### [討議] 12期「13期生にどう伝えられるのか？」

明日の親方修行のため、コンセプトの整理と作業内容の確認を行いました。また今日の反省もふまえて、明日のプレゼンでは13期生にどのように伝えたらよいかを作業班ごとに話し合いました。たき火を囲みながらじっくりと話し合う場となりました。



### [意見交換] 13期「なぜ森の手入れをするのか」

これから自分たちが森に向かうにあたって、それぞれ「森の手入れの必要性」について考えているところを出し合いました。キーワードとして「伐るときの判断基準」「今、木を伐る目的は何か?」「伐った木の利用方法を知りたい」「よい森とはどのような森か?」などが出てきました。



### [小講義] 13期「森の手入れの必要性」

先の意見交換で出てきたキーワードも交えながら、どうして森を手入れしなければならないのかについてスライドを使いながら伝えました。また、「よい森」の一つの判断基準となる森林認証制度(FSC)についても説明を行いました。

### 「森人」との出会い

12期生と13期生とスタッフが集う最初で最後の夜。お互いのことをより知るために改めて自己紹介タイムとなりました。この講座にかける思いやこれまで行ってきた活動・成果など、今の自分を思いっきり表現していました。特に12期生はこの半年間にできたこと、できなかったことなどを熱く語っていました。



## 2日目：受け継がれるもの（伝わるもの）

### 【実技】12期「森づくり事始め／親方修行」

### 13期「森づくり事始め／親方に弟子入り」

12期生は前日に練り込んだ森の手入れ作業計画を13期生にプレゼンテーション。どちらの作業班も自分たちのコンセプトに自信を持って発表していました。その作業計画のプレゼンをうけて、どちらの作業班に入るのかを迫られた13期生。自分の直感も交えての選択となりましたが、大人の配慮もあったのかほぼ同数の人員に落ち着きました。作業班が無事分かれたところで作業開始。6月にやり残した続きや、今回改めて考えたことなどを互いに共有しながら着々と作業を進めました。また途中では11期生のどんちゃんによる「ぶり縄&枝打ち体験」や、ホウの落ち葉を集めて寝てみるホウ葉布団体験も行われ楽しい雰囲気の中、それぞれ計画通りに作業は無事終了しました。

### 【ふり返り】12期「森人をつなげるために」

### 13期「やってみてどうだった」

12期生13期生共にそれぞれの立場で森づくりを実際に体験し、その体験の中でどのようなことを得ることができたのかをふり返りました。そこで出てきたキーワードとして「やることすべてに意味がある」「どういった森にしたいかが必要」「実践しなきゃわからない」「バランス」「間伐は楽しい」などが出てきました。これらを作業班ごとにまとめてそれぞれ発表しあいました。また12期生は13期生から親方としてどうだったかのフィードバックをもらい、これから活動していく糧となりました。

### 「森人がつながる」（引継ぎの儀）

いよいよ前半のクライマックス。12期生は13期生に最後に伝えることを個々人が一生懸命考えて言葉にしました。13期生は12期生にこの短い2日間で学んだことを感謝の言葉「あ、り、が、と、う、5、ざ、い、ま、し、た」にまとめて全員で発表しました。

その後全員で記念撮影を行い、真っ青な空の下いよいよ別れの時となりました。互いに話し足りないことなどがあり、別れを惜しむ時間が続きましたが出発の時間となり12期生はそれぞれの家路に向けて旅立っていきました。

13期生は少しの間余韻を確認しながら次の活動に向けて休憩時間となりました。

### 実技「まずは安全作業から」

道具を使ったり危険を伴ったりする作業を行うには、まずは安全な作業の方法を知ることが肝心。正しい道具の使い方から始めて作業中にどんな危険が潜んでいるかをあらかじめ知っておく危険予知トレーニング（KYT）まで、実際の作業現場でスタッフが体を使ったパフォーマンスを見せて納得してもらいました。

### スタッフとともに（スタッフの小部屋）

スタッフが13期生とじっくりと語り合う時間です。スタッフが提示したそれぞれのテーマに関心を持ってくれた受講生と話すスタイルで始まりました。夜も更けるにしたがい、きれいな星空にひかれるように星空観察会が始まります。流れ星が夜空を横切るたびに歓声が上がリ、願い事が言えなかったことにため息をついたり一喜一憂のひとときでした。



### 3日目：森づくりの実感（伝えるもの）

#### 【小講義】「森づくり／計画を持って事に当たる」

昨日までとは違ってかわった寒さの中、霜柱を踏みながらの活動開始。今日から13期生自身の森づくり活動となります。まず森づくりに必要な「コンセプト・テーマ・理想」を決めるため、森の調査の仕方から講義開始。内容は、自分達が手入れをする森はどこかを探る方法としての「樹冠投影法」です。

#### 【実技】「森づくり計画編」

小講義で学んだ「樹冠投影法」を早速使った森の調査。自分たちの作業場所である森の様子をしっかりと調べ、どのように手入れをしていくのか、森の手入れの計画を作成するための懸命な作業でした。その後、調査結果から「コンセプト」や作業手順などをグループ内で話し合い、午後から行う作業内容を決めていきました。

森に入って計画の再確認。修正が必要なところや「やっぱり伐るしかないのかな・・・」など、樹に対する思い入れが出てきたところを整理し直し、計画修正を行いました。また、互いの班の作業計画を発表し共有することで、曖昧になっていたエリア境界部分の活用方法に新たな展開が生まれ、互いのエリアをつなぐ作業道を作ることに加わりました。

#### 【実技】「森づくり実践編」

作業に入る前に指差し呼称や危険予知など、作業を安全に行うための確認や道具の使い方などをしっかりと行ってから作業に入りました。低灌木を伐って林床を整備したり、雪害を受けそうな樹を伐ったり、林床に光を入れるためにあえて高層木を伐ったり、それぞれの計画に沿って作業しました。作業後は次回講座となる6月の風景を想像しながら、それぞれの作業成果を紹介し合いながら歩きました。その後、作業エリアを区切っていた境界テープをテープカットに見立てて、受講生全員でカットし、自由に行き来できるようにしました。

暗くなってきたところで室内に戻ってふり返り。「計画してどうだった?」「作業してどうだった?」「これからどうする(6月も含めて)」この3つのことについて個人でふり返った後、班の中で共有していきました。

#### スタッフとともに（前半のふり返り）

今日で森での作業は終了。これまでに行ったことをスライドショーを見ながら、ここまでの講座をふり返りました。たった3日間しかたっていないのが嘘のように、充実した時を過ごしてきたことを実感することとなりました。さらに、ここまでで感じたことや疑問に思ったことなどをスタッフと共に話し合いました。

さらに昨夜に引き続いてのナイトセッション。みんなの大先輩達（講座修了生）が残した活動場所へナイトハイク。そこでゆっくりと暗闇の中の時間を過ごしてみました。



#### 4日目：先を見越す

今朝は、昨夜ナイトハイクで行った場所へ早朝散歩。闇の中で見た風景と朝日の中でみる風景は全然違い、朝の凜とした空気の中、気の引き締まる思いでした。

#### 【小講義】「人と森とのつきあい方」

人は昔から森と関わって生きてきたが、どのような関わり方をしてきたのかをスライドなどで学びました。また、実際に行われた植樹後の変化もスライドでみることで実感できました。この講義で改めて実践の大切さや、木や森に関わることの大切さをひしひしと感じたことでしょう。

#### 【実技】「森づくり／利活用編」

「森づくり」で伐採した樹。放置して土へと還すよりも、森の恵として利活用することが大事。しかし、丸太のままでは使いにくいので、加工しやすい板・角材へ仕立てることが必要です。今回は樹木→木材へと仕立てる方法を2種類行いました。まずは丸太を短く切って斧で割る方法。丸太の木口に置かれた斧にカケヤを振り下ろすと、小気味よく割れていきます。次にチェーンソーと治具を使って丸太から板にする方法を実施。簡易的な製材法で、ホームセンターなどで見かけるような板にみごとに变身です。生木加工のため、切ったり削ったりしたところがしっかりと濡れていることや、乾燥した板との違いを確認したりしました。

#### 【実技】「森のモノづくり」

板・角材になった材料を使っての自分が使うためのものづくり。じっくりと材料と向き合いながら、作品に仕上げていきました。もちろん道具の正しい使い方が大前提です。ここでも安全確認はおろそかにできません。そうして出来上がった作品はスプーンやハシ、木のお皿などがあり、入れられた模様にも凝ったものが見られました。

#### オークヴィレッジ見学

薄暗く寒くなってきたところで作業を終了し、プロの仕事を見るためにオークヴィレッジへ。小講義のスライドにもあったオークヴィレッジの始まりの頃と現在の様子を比較して、植樹後30年程で森が出来上がってくることを目の当たりにしました。さらに、ショールームではプロの技術による作品にふれ、同じように見える木材でも使う場所・目的によって樹種や部位を変えたり（適材適所）、木の特徴を活かしながら顧客の要望に応えたりする（詠える）など、本当の意味での利活用ということを実感しま**森人大交流会**

今日でこの講座最後の夜を迎えました。いよいよ明日はこれまでの4日間の講座をふり返る日。ということで今夜はフェアウェルパーティー。思い残すことがないように、互いのことやこの講座で学んだことなどをいつまでもいつまでも話はやみませんでした。





## 5日目：つながるために

### [小講義]「人の環づくり」

人の環をつくるためには、そのための仕掛け作りが大切。仕掛けを作るためにはまず企画することからということで「企画する」とはどんなことを学びました。思い(情熱)から始まり、それを社会的・物理的条件などと照らし合わせて検証し、与件(5W2H)を整理し解決していくことを学びました。

### ふり返り

ここからはしばらく、ソロになってこの5日間をゆっくりとふり返り。それぞれが思い思いの場所に散って、色々なことを思い出しながら腕に落とそうとしていました。また次の6月の活動に向けてどのように自分たちの思いを伝えられるのかについても考えていました。

### 全体ふり返り

それぞれが思ったり考えたりしたことを全員で共有し、この思いをどうしたら次期参加の14期生に伝えられるのか考えました。また、アンケート記入や配布物を渡しました。

### 閉講式

いよいよこれが本当に最後の時。13期生からスタッフへ、全員の思いのこもった寄せ書きの輪切りが贈呈されました。最後に記念写真を撮ってそれぞれが家路につきました。



←13期生のみ

## お疲れさま！！

↓ 全員集合写真



オークヴィレッジ／森林たくみ塾 Aコース講座アンケートから受講生の声です。

### ☆受講生の声

- ・ 森の人づくりは「森の人」づくりであり、森の「人づくり」であるということ。「腑に落ちる」など日本語にはいい表現がたくさんある。  
森とモノづくりがつながっていることを頭ではわかっているけど、体験してみないことには伝える説得力もないし納得しきれない部分があったので、やっぱり何事も「やってみる」が一番だと思った。  
短期間では消化しきれない部分もこれからの経験を通してもっと深く考えていきたい。人生の転機になった。
- ・ 今回、初めて森について真剣に考えたと思います。自分達の森を作るということから色々な意見が出ることから答えは一つではないということに気がきました。また、日本の森の現状を知り、いかにしていくべきか、知ることができました。もっと多くの人々が現状を知る必要があると感じました。小さな森でも自分達の力で“変えること”ができたのは大きな一歩だと思った。日常でも続けていきたい。
- ・ 講座を受ける環境（場所、講師、内容）が素晴らしい。参加者も個性的かつ環境問題・環境教育に積極的な意見の持ち主で刺激的でした。講座を通じて、様々な森の人・自然・作品などを知り、多くの知恵の種をもらいました。
- ・ 「素直な感覚で森とつきあうこと。」無理してむき合わなくてもいい。  
「環境教育」が先にあるのではなく、まず森とつきあうことがあり、生活していく知恵があり、それがたまたま「環境教育」という考え方に近かっただけ。  
忘れかけていた、自分で使うものをつくり、工夫をしていく楽しさ。
- ・ 森の中に居ることが普通になった。  
森の中で木と向かい合う。森の中には様々な木があって、みんな生きている。生命を感じる。  
森に手を入れるのは人間のエゴだけど、そこに森への愛が加われればエコになる。
- ・ 森も人もみーんな生きとるよ。  
考えたら、そく行動。  
自分の「好き」をより「好き」になる
- ・ 「森を伐ること」に強い違和感をもっていました。間伐する事は「もっと元気で豊かな森」を育てることになる、その中で人と森(自然)が共存するということを考えるきっかけづくりが出来たことに気がきました。人と自然は助け合っていて兄弟なんだと思えたら、凝り固まった環境へのイメージも、もっと幅広く身近なものに思えた。
- ・ 都会にはないものすべてをこの講座によって得ることが出来たと思う。自然の豊かさ美しさや、実際森に入りそこで自然活動が出来ると言うことが、とても良い体験になったと思う。人の環も広がり大切な仲間が出来たと思う。
- ・ とても素敵な人達に出会えたこの偶然是宝ものです。これからもつながりを大切にしていきたい。  
“実際に自分でやってみる”ことが、とても大切なことなんだと思いました。  
頭（想像）と体（行動）のバランスが大事だということを感じました。
- ・ ここには真剣に考え、真剣に取り組む人達がいる。森や環境に対して何か想いがあることを心から語れる場所。最終的に見ているところが違っても、自分と相手の考えを交わし理解しながら何かができる。
- ・ 森が用意してくれる物を共有したいし、もっときづきたいし、きづきあいたい。すごく自然にしてて、きづかされるようなひとになりたい。  
腑に落ちたことは2つあり、自分が森へいきたいということが確認できたことと、目標に向かって少しずつでも具体的に行動し、計画を立てる事をしていく。

# プログラム紹介

キープ・フォレスターズスクール コース

場所

山梨県北杜市高根町

●研修のねらい

環境教育について理解し、自分がどのように環境教育に関わっていきたいのかを考えるきっかけになること  
インタープリテーションのおもしろさやその意味を理解すること  
全国の仲間とのネットワークを作ること  
あなた自身のねらいを達成すること

●そのために大切にしたいこと

体験から学ぶこと（まずは、体験することから）  
お互いから学ぶこと（相互啓発、相互学習、みんなが先生）  
楽しみながら学ぶこと（あそび心で！）

●プログラム実施結果

---

第1日目／11月23日(木・祝日) 人・フィールド・プログラムに会う

---

	13期生	12期生
13:00		プログラム開始「ふりかえりと目標の設定」
14:30	開講式／オリエンテーション	←同左
15:00	講座のウォーミングアップ	←同左
15:30	環境教育プログラムの体験「参加者主体型」	←同左
17:00	目的の共有化・自己紹介	←同左
18:00	夕食	←同左
19:15	講義「環境教育概論」	実習「翌日の環境教育プログラム実施への準備」
20:15	一日を整理する時間、終了	←同左
20:45	自由交流会	←同左

---

第2日目／11月24日(金) 思いをつなぐ日

---

	13期生	12期生
07:00	環境教育プログラムの体験②「説明型・やりとり型」	実習「環境教育プログラムにむけての準備の続き」
08:00	朝食	←同左
09:15	環境教育プログラムの体験	環境教育プログラムの実施
11:00	全員ディスカッション「日本の森を元気にする」	←同左
12:00	昼食	←同左
13:15	講義②「環境教育概論」	プログラム実施のふりかえりとわかちあい
13:45	↓	クロージング
14:30	お見送り	解散
16:00	インタープリターズトークショー	
17:00	講義「体験学習法」	
18:00	夕食	
19:30	環境教育プログラム体験③「ナイトハイク」	
20:30	一日を整理する時間、終了	

---

第3日目／11月25日(土)

コミュニケーション能力をつける

---

- 07:00 オプション「学生時間（自分たちのしたいことをする時間）」
  - 08:00 朝食
  - 09:15 道草ハイク、枝打ち&箸づくり体験
  - 14:00 デジカメスライドショー作りのオリエンテーション
  - 14:30 デジカメスライドショー作り
  - 17:00 デジカメスライドショー発表会
  - 18:00 夕食
  - 19:15 デジカメスライドショーふりかえりとわかちあい
  - 20:00 講義「体験学習法の理解」
  - 20:15 環境教育プログラム実施&相互評価のオリエンテーション
  - 20:45 一日を整理する時間、終了
- 

第4日目／11月26日(日)

インタープリターを体験する

---

- 07:00 希望者のみプログラム準備
  - 08:00 朝食
  - 10:00 環境教育プログラム実施&相互評価
  - 12:00 昼食
  - 13:15 プログラムの練り直し
  - 14:15 講義「安全対策」
  - 15:00 学生時間
  - 17:00 講義③「環境教育概論」
  - 17:45 一日を整理する時間
  - 18:00 夕食&交流会
  - 19:15 オプション「インタープリターズトークショー②」
- 

第5日目／11月27日(月)

講座のまとめ

---

- 08:00 朝食
- 09:30 補いの講義、質疑応答
- 10:15 フリップボードディスカッション
- 11:15 1人になる時間
- 12:00 昼食
- 13:15 講座全体のふりかえりとわかちあい
- 14:00 クロージング
- 14:30 終了、解散

## 1日目：自然、人、環境教育に出会う

### 開講式／オリエンテーション

13期生よりも一足早く12期生は集まり、前回の3泊4日をふりかえる。そして、今回の講座で13期生に伝えたいことは何かを宣言しあった。この目標設定のおかげか、12期生には少し余裕が窺えた。そして14時半、晩秋の清里に12期生10名、13期生9名の計19名が集まった。13期生にとっては、初めての環境、初めて会う人ばかり。その緊張感からか、少し大人しめの開講式となった。



### [体験]講座のウォーミングアップ

声を出し、笑い、他の人と会話をすることで緊張を解きほぐす時間。まずは、グーパー体操。体を動かすことで、13期生の顔からも自然と笑みがこぼれる。次に、ニックネームの五十音順や誕生日順に並び変わることによって、お互いの顔と名前を確認。次第に声を出すようになってきた。そして、ストッキングボールでは、12期生、13期生がまわらずに会話、協力ができている様子がみられた。



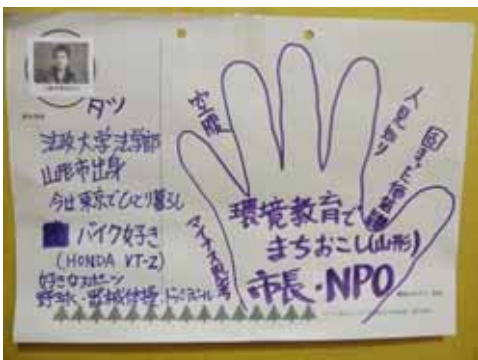
### [実習]環境教育プログラムの体験

五感を使って自ら自然を感じる時間。視覚を用いて、森に隠れたヤマネのぬいぐるみを探し、聴覚を用いて、フィルムケースの中に入っている自然物は何かを考える。前の時間のウォーミングアップが効いているのか、互いに抵抗なくコミュニケーションがとられている様子が見られた。3人デートにおいては、大笑いしながら落ち葉に寝転がっているグループもあれば、座わりこんで真剣に話し込んでいるグループもあった。



### 目的の共有化

A4サイズの白紙に自分の手形を縁取り、書いた手形の中に今回の講座のねらいを記入。そして、手形の周りにそのねらいを阻害するものを記入した。そのねらいを見せながら自己紹介を行い、目的を共有しあった。各個人のねらいは「友達作り」「伝える楽しさ・知る楽しさを見つける」「インタープリテーションのスキル&つながりを得る」など様々である。先程の時間で緊張がほぐれたとはいえ、みんなの前で話すことはやはり緊張するようだ。





### 【講義】環境教育概論（13期生）

『環境教育』と聞いて思い浮かべる活動」を一枚の紙に一つずつ書いてみる。一人5～6枚、多い人では10枚程度も記入していた。書いた内容は「地球温暖化」「CO<sub>2</sub>増加」など地球系のものが多かった。それぞれが記入したものを壁に貼り付け、環境教育の扱う領域が広範であることを実感。そして、増田講師の講義から環境教育の全体像を理解する時間となった。



### 【実習】プログラム準備（12期生）

翌日のプログラム実施に向けた準備の時間。前回の講座で実施したものと同一プログラムを実施するとはいえ、初夏に来た頃の清里と今の清里ではフィールドの様子が全く違う。初夏にはあった新緑が、今はもう枯葉となって地面に落ちてしまっている。みな準備に苦戦している様子だった。夜まで話し合いが続き、前回のプログラム内容と全く異なる内容へと話が進んでいるグループも見られた。

## 2日目：思いをつなぐ



### 【体験】早朝ガイドウォーク（13期生）

朝7時の集合時の気温は-1.4℃。非常に寒い。こんなに寒くて、葉も花もない初冬であっても、森の中をよく見ると、カエデのタネやきのこ、リスの食痕や穴のあいたドングリ、そして、まるで人の顔のような模様の冬芽などいろいろなものが見えてくる。そして、早朝にしか見ることのできない、美しい朝日。目の前に広大な牧草地の広がる展望テラスから、朝日と富士山を皆で見つめた。



### 【実習】環境教育プログラムの実施（12期生）&体験（13期生）

12期生が前回行ったプログラムを13期生に実施する時間。12期生の実施したプログラムはどれも前回の改善点を活かしていて、とても良くなっていると同時に、今の時期の清里に合わせた内容にうまくアレンジされていた。例えば、葉っぱのじゃんけんでは、落ち葉中心の今だからこそ、お題が「赤い葉っぱ」に代っていたり、前回は指定した形のものをもってくるというプログラムだったものが、今回は自分達で好きな形を作るというプログラムになっていたりそれぞれのグループのアレンジが楽しめた。13期生も12期生から良い刺激を受けつつ、12期生が実施するプログラムを純粋に楽しんでいる様子だった。



### [実習]ディスカッション「日本の森を元気にする」

皆で日本の森の未来について考える時間。森のプラス面、マイナス面を書き出して貼り出し眺めた後、日本の森を元気にする方法をまずは個人で、その後、3～4人のグループで考えた。各グループから「森のゴミ拾い&ハイキングの実施」「増やす」「森の評価など非貨幣性資産の評価方法の確立」「林業の経済的向上」など様々な意見が挙げられた。森について皆と真剣に話し合えたことに対する満足度は高いようだった。



### フリップボードディスカッション&12期生クロージング

12期生と13期生が共に過ごす最後の時間。フリップボードに今の率直な気持ちや、12期生から13期生へのメッセージなどを記入し、見せ合った。12期生からのメッセージには「感謝の気持ちを忘れずに。1日1日大事に過ごしてほしい」「ムリはしない、させない」などがあり、12期生も13期生も熱いものがこみ上げてきているようだった。そして、最後に12期生から13期生へつながり冊子と手紙が渡され、また一つつながりが生まれた。



### [講義&実習]体験学習法

体験学習法の基礎を学ぶ時間。「私は——です。(という人です。)」を12個以上あげ、3人組で読みあう実習と、名前を呼びながら、紙くずや生卵を投げ合うネームトスの実習を通して、コミュニケーションの必要性や、体験学習法の簡単な概要を理解した。実習の中でも、生卵を投げあう実習は参加者の印象に残ったようで、人と話すときも卵を受け止めるように優しく、包み込むようにしなくては。という声も聞かれた。



### [実習]ナイトハイク

夜のプログラムを体験する時間。冷え込みは厳しかったが、星がとてもきれいな夜。カイロとペットボトル湯たんぽを持って、夜の森へ出かけ、10分程度一人の時間を過ごした。畳一条ほどの銀マットを敷き、夜の森で寝転び、夜空を見上げる。その短い時間の中で、夜の森からおの何か感じ取っていたり、感銘を受けているようだった。



### 3日目：コミュニケーション能力を鍛える

#### [実習]道草ハイク



お弁当と水筒をリュックにつめて、川俣溪谷へハイキングに出かけた。霜柱、鳥のさえずり、植物、動物の痕跡に注目し、寄り道をしながら森をぬけ、溪谷へと降りていった。溪谷沿いで休憩した後、はし作り用の枝を間伐。間伐する量は少ないながらも、きちんと木々の未来や森のバランスを考え、慎重に選んでいる姿が見られた。そして、牧草地へと移動して、お昼ごはんとはし作り。ごはんの前にはしを作って、早速作ったはしでお弁当を食べる人もいた。

#### [実習]デジカメスライドショー作り&発表



3人グループで、NEC森の人づくり講座のCMスライドショーを作った。まず初めに、アイデアフラッシュを行うグループ、時間配分を考えるグループ、スライドの流れを考えるグループとそれぞれ異なるスタート。どのグループも時間を過ぎてしまったが、全国から集まった仲間が環境問題解決のために力を合わせることで、一人ではできないことがあるということ、共に成長していきたいということなど、それぞれのグループがそれぞれのねらいを持って、一つのスライドショーを作りあげることができた。このスライドショー作りを通して、グループで協力して一つのものを作り上げる大変さ、楽しさ、プロセスの重要性を実感したようだった。発表後は、みな真剣に実習をふりかえり、次への課題について熱く語り合っていた。



#### [講義]体験学習法の理解



実習を踏まえて体験学習法の基礎を理解する時間。スライドショー作り実習のふりかえりで、どんな意見がでたかという質問に対して、「時間管理が難しかった」「合意がとれていなかった」「ねらいを共有していたことによって動きやすかった」など、さまざまな意見が出てきた。このように自分達を感じたことを踏まえた上での、体験学習の循環過程についての講義は13期生たちに染み入るものが多かったようだ。

## 4日目：インタープリターを体験する

### [実習]環境教育プログラム作り&実施&相互評価

体験からインタープリテーションを学ぶ時間。3人グループを作り、それぞれのグループが導入、本体、まとめの部分のプログラムを担当。どのグループも早い段階で「まずはやってみよう！」と外へ。昨日よりも表情から余裕が窺えた。そして、時間内に準備を整え、実施に。実施中はみな緊張している様子だったが、いざ参加者ともなれば、一気にプログラム体験に集中し、他のグループが実施するプログラムを純粋に楽しんでいた。そして同時に、プログラム体験からそれぞれ、初冬の森の不思議さ・おもしろさを感じているようだった。どのグループも、実際にプログラムを実施し、参加者からのフィードバックを受け取って、いい意味でも悪い意味でもショックを受けているようだった。そして、その後3人で改善点を真剣に出し合った。次回に向けて、今回のプログラムがどう変わっていくのか楽しみである。



### [講義]安全対策

安全管理に関する基礎知識をもつ時間。今回の講座で体験した、プログラム実施時やハイキングの際に、どのような危険があったか、またそれを回避するためにはどのような対策をとればよかったか、もしくはどんなことを行ったかを話し合った。その後、安全対策に関する講義を受け、時間軸に沿った安全対策が必要なことを理解した。



### インタープリターズトークショー

先輩たちの実状や思いを知る時間ということで、KEEP協会常務理事であり、かつ、JEEF理事の川嶋や、この講座を修了した後、KEEP協会働いている先輩4人の話を聞いた。川嶋からはこの講座の歴史や意味、そして、将来どのような分野に進んでもこの講座で学んだことを活かしてほしいという話があった。講座修了生には、「なぜ今ここにいるのか」「講座後、自分の中で変わった点」など様々な質問に答えてもらった。みんな真剣に聴いており、13期生からも修了生に対していくつか質問があった。



## 5日目：思いを次回につなげる



### [講義]環境教育概論

ここまでの体験をふまえて、より環境教育について理解する時間。環境問題はなぜ起こるかや、インタープリター・インタープリテーションについて学んだ。最後の講義となるこの時間に、増田講師から13期生に対して、あなたの環境教育の切り口・スタイルは？という問いかけとともに、普段の生活の中からインタープリテーションを行ってほしいとの話があった。みな深々と受け止めている様子だった。



### フリップボードディスカッション

質問に対する答えをフリップに記入し、フリップを持って歩きながら見せ合い、その後、3~4人組を作ってシェアしあった。質問は「今の率直な気持ち」や「講座で学んだこと」、「次回の受講生に伝えたいこと」など。講座2日目のフリップボードディスカッションの際と、質問内容は同じであっても答えが異なっていたし、5日間ともにしたメンバーだからこその楽しい雰囲気であった。おのおの、今回学んだことをふりかえり、次回までの目標を掲げる機会ともなった。



### ログブック

毎晩、1日をふりかえり、その日感じたことや気づいたことをこのログブックに書き留めた。5日間という短い期間の中で、毎日何かを得たり、感じたりしていること、日々成長していること、そして、日を追うごとにこの環境に馴染んできていることが皆のログブックから読み取ることができた。



### クロージング

5日間のふりかえりスライドショーを見た後、また最後にみんなで円形にイスを並べ、一人一言ずつ感想を言い合った。感想には「半年後を楽しみにしている」「みんなの成長が楽しみ」「新しい家族ができた」「ここにいるメンバーといつか一緒に仕事がしたい」などがあつた。互いに感謝し合い、再会を楽しみに思う気持ちがとても伝わってきた。

キープ・フォレスターズスクール Bコース講座が終了したときの受講生の感想です。

### ☆受講生の声

- ・創造していくことの難しさ。社会人としてプレゼンをする中で時間を守れないことは信用を損なうという厳しさ。今回、環境教育プログラムの作成をする時に特に感じたことです。  
インタープリターのみなさんは人を褒めるということが上手いということ。褒めるということは人の可能性を伸ばすということに今回あらためて気がつきました。  
環境・設備、何より迎えてくれる人達に恵まれ、少人数の中でとても濃い内容の体験ができました。
- ・環境教育に対する見方が変わった。これまで環境教育とは、自然体験活動や公害に関する啓蒙活動くらいの狭い活動と  
思っていた。しかし、最初の講義で、環境教育が目指すものは「誰にとっても平和な社会の実現」であると知ったとき、  
一気に心が晴れるような気持ちになり、とても感動してしまった。
- ・世界には様々な問題や事象があって、それらを解決する為に教育が重要であると考えている。この講座に参加する前  
で、私は国際協力と環境問題と、どちらにより関わっていきたいかを悩んでいた。私の中でこの二つは、別の問題だと思  
っていたからだ。しかし、環境教育の扱う領域には、どちらも含まれる事が分かった。
- ・「意識」と「行動」が環境教育に大きく関わることを学べたことは、これから私が環境教育への関わり方を模索する上  
での指標になると感じる。「他者」と「自分」、「意識」と「行動」を少しずつ組み合わせ、私自身の生き方を探したい。5日  
間で人生の原点が生まれるなんて予想もしなかった。
- ・この講座を通して感じた「環境教育」というものは、①体験することで知る②お互いの気持ちを共有する③得たことを  
楽しく伝える、の三つからなるものだと思います。  
そして発見したことは、“人を知ることは自分を豊かにすること”（知識だけではなく、人を通して学び、感じることで自  
分自身が豊かになる）です。人と人の気持ちの共有こそが物事を進めていくうえで根幹をなすものだと思います。
- ・環境教育を自分なりの形で生涯続けていこうと決意しました。「誰にとっても平和な社会」を最終目標にして活動を続け  
ていきたいです。環境教育活動は「思い」があれば一人でも手軽にできるもので、特別な活動ではないことを学びました。  
一人一人に合った環境教育を考え、実践していきたいです。
- ・環境教育を肌で学んだことにより、3つのストーリーを描くことができました。1つ目は、CSR 推進事業として、企業  
に入り環境教育を波及させ、自分の力もつけていきたい。2つ目は、「環境教育をまちづくりにつなげる」というストー  
リーです。最後のストーリーは、上記の2つに欠かせない“人の環を広げる”というストーリーです。講座の中で学んだコ  
ミュニケーション能力は、人の環を広げるにはなくてはならないものであると確信しました。最後に3つに共通して言え  
るのは、Think globally, Act locallyです。しっかり大地に足をつけて、自分の道を歩んでいきたいと思います。
- ・環境に学び、得たものは、暖かな気持ちも、複雑な感情も様々ですが、この講座を受ける前と後では、自分の中の蓄え  
に明かに違いがあります。今感じていることを形にして残していくことで、誰かの感性に触れることは、一種「教育」と  
いえるのだと思います。これを通して自分の生き方や、人との関わりを大切にし、その上に環境の持つ可能性や、問題  
を感じとっていく事が築かれています。この思いをたやすことなく、私が私を十分に生き、人と共有していく事が、環境教  
育に関わる第1歩なのだと感じます。
- ・何よりもまず清里で共に過ごした仲間、NEC および本講座に関った全ての人に感謝しています。講義で聴いた内容、屋  
外での実習、仲間の話、自然から感じたこと、その他を自分の既存の価値観と照らし合わせて、取り入れるべきものを取  
り入れ、それに基づいて生活していけば、必ず生きてくるはずですよ。